2025年度　学科別授業科目一覧表　（実務経験表記あり）

課程： 工業専門課程　　学科： 高度情報システム科

NO.	授業科目	学年	授業時間数	単位	必須･選択	講義･実習	実務経験
1	C言語演習I	1	60	4	必修	実習	有
2	C言語演習II	1	60	4	必修	実習	有
3	C言語文法I	1	30	2	必修	講義	有
4	C言語文法II	1	30	2	必修	講義	有
5	Javascript Ⅰ	1	30	2	必修	実習	有
6	データベース演習(SQL) Ⅰ	1	30	2	必修	実習	有
7	CCNA Ⅰ	1	30	2	必修	実習	有
8	アルゴリズムⅠⅡ	1	60	4	必修	講義	有
9	システム設計	1	30	2	必修	講義	有
10	セキュリティ Ⅰ	1	30	2	必修	講義	有
11	セキュリティ Ⅱ	1	30	2	必修	講義	有
12	ソフトウェア	1	30	2	必修	講義	有
13	ハードウェアⅠⅡ	1	60	4	必修	講義	無
14	ネットワーク Ⅰ	1	30	2	必修	講義	有
15	ネットワーク Ⅱ	1	30	2	必修	講義	有
16	ホームページ	1	60	4	必修	実習	有
17	表計算基礎 Ⅰ	1	30	2	必修	実習	無
18	表計算基礎 Ⅱ	1	60	4	必修	実習	無
19	文書編集基礎	1	30	2	必修	実習	有
20	ITパスポート対策	1	30	2	必修	講義	有
21	基本情報対策 Ⅰ	1	30	2	必修	講義	有
22	基本情報科目A対策	1	30	2	必修	講義	無
23	基本情報科目B対策	1	30	2	必修	講義	無
24	基礎数学 Ⅰ	1	30	2	必修	講義	無
25	基礎数学 Ⅱ	1	30	2	必修	講義	無
26	基礎英語 Ⅰ	1	30	2	必修	講義	有
27	ビジネスマナー Ⅰ	1	30	2	必修	講義	有
28	経営	1	30	2	必修	講義	有
29	体育実習 Ⅰ	1	60	4	必修	実習	無
30	課外活動 Ⅰ	1	15	1	選択	実習	無

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　前期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
専門　必修	実習	C言語演習I	坂東　佑一	有	4 単位　60 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

プログラミング初心者を対象に、C言語を通じてプログラミングの基礎を習得する。(C言語文法Iと完全連動)

【講義概要】

1年前期の授業のため基礎的な課題を中心に出題するが、高度情報システム科の授業であることから難易度の高い課題も出題する。
自宅でもプログラミングをする習慣を付け復習に努めるとともに、プログラミングの楽しさを実感してもらいたい。

回	授業計画及び学習の内容
1	C言語の特徴、プログラム作成手順(コンパイル、実行)、画面出力、データ型、変数
2	条件分岐(if/else if)
3	条件分岐(switch)
4	繰り返し(while)
5	繰り返し(for)
6	配列
7	中間試験☒
8	二次元配列、文字列
9	文字列
10	関数
11	ビット演算、メモリ領域、ポインタ
12	ポインタ
13	構造体
14	標準ライブラリ
15	総合演習

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	100%					100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

慶應義塾大学理工学部情報工学科(学士)、東京大学大学院学際情報学府(修士)
NTT研究所(2013-2015)、慶應義塾ITC(2015-2020)での勤務を経て、2020年2月～現職

【教科書・参考文献】

C言語 新版 ゼロからはじめるプログラミング(翔泳社)

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　後期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
専門　必修	実習	C言語演習II	坂東　佑一	有	4 単位　60 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

C言語初級から中級にレベルアップすることを目標とする。

【講義概要】

前期に学習したポインタや構造体等のより深い理解をするとともに、コマンドライン引数やファイル入出力等を学習する。また、マルチスレッドプログラミングやセキュアプログラミング等、応用的な課題も取り扱う。

回	授業計画及び学習の内容
1	前期の総復習
2	コマンドライン引数、ファイル入出力
3	ポインタ、構造体の応用演習
4	ポインタ、構造体の応用演習
5	関数ポインタ
6	総合演習
7	総合演習
8	マルチスレッド
9	マルチスレッド
10	デバック練習、他人が書いたコードを読む練習、プログラミング英語を読む練習
11	セキュアプログラミング
12	やや規模の大きいプログラム(数百行～千行程度)を実装する総合演習
13	やや規模の大きいプログラム(数百行～千行程度)を実装する総合演習
14	やや規模の大きいプログラム(数百行～千行程度)を実装する総合演習
15	総合演習

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	100%					100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

慶應義塾大学理工学部情報工学科(学士)、東京大学大学院学際情報学府(修士)
NTT研究所(2013-2015)、慶應義塾ITC(2015-2020)での勤務を経て、2020年2月～現職

【教科書・参考文献】

C言語 新版 ゼロからはじめるプログラミング(翔泳社)

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　前期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
専門　必修	講義	C言語文法I	坂東　佑一	有	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

プログラミング初心者を対象に、C言語を通じてプログラミングの基礎を習得する。

【講義概要】

1年前期の授業のため基礎的な課題を中心に出題するが、高度情報システム科の授業であることから難易度の高い課題も出題する。
各自自宅でもプログラミングする習慣を付け復習に努めるとともに、プログラミングの楽しさを実感してもらいたい。

回	授業計画及び学習の内容
1	C言語の特徴、プログラム作成手順(コンパイル、実行)、画面出力、データ型、変数
2	条件分岐(if/else if)
3	条件分岐(switch)
4	繰り返し(while)
5	繰り返し(for)
6	配列
7	中間試験☒
8	二次元配列、文字列
9	文字列
10	関数
11	ビット演算、メモリ領域、ポインタ
12	ポインタ
13	構造体
14	標準ライブラリ
15	総合演習

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	100%					100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

慶應義塾大学理工学部情報工学科(学士)、東京大学大学院学際情報学府(修士)
NTT研究所(2013-2015)、慶應義塾ITC(2015-2020)での勤務を経て、2020年2月～現職

【教科書・参考文献】

C言語 新版 ゼロからはじめるプログラミング(翔泳社)

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　後期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
専門　必修	講義	C言語文法II	坂東　佑一	有	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

C言語初級から中級にレベルアップすることを目標とする。

【講義概要】

前期に学習したポインタや構造体等のより深い理解をするとともに、コマンドライン引数やファイル入出力等を学習する。また、マルチスレッドプログラミングやセキュアプログラミング等、応用的な課題も取り扱う。

回	授業計画及び学習の内容
1	前期の総復習
2	コマンドライン引数、ファイル入出力
3	ポインタ、構造体の応用演習
4	ポインタ、構造体の応用演習
5	関数ポインタ
6	総合演習
7	中間試験
8	マルチスレッド
9	マルチスレッド
10	デバック練習、他人が書いたコードを読む練習、プログラミング英語を読む練習
11	セキュアプログラミング
12	やや規模の大きいプログラム(数百行～千行程度)を実装する総合演習
13	やや規模の大きいプログラム(数百行～千行程度)を実装する総合演習
14	やや規模の大きいプログラム(数百行～千行程度)を実装する総合演習
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	100%					100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

慶應義塾大学理工学部情報工学科(学士)、東京大学大学院学際情報学府(修士)
NTT研究所(2013-2015)、慶應義塾ITC(2015-2020)での勤務を経て、2020年2月～現職

【教科書・参考文献】

C言語 新版 ゼロからはじめるプログラミング(翔泳社)

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　後期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
専門　必修	実習	Javascript Ⅰ	高橋　義博	有	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

JavaScriptの目的や役割をしっかりと理解したうえで、DOMの制御を行い、適切なブラウザレンダリングを行うことができるようになる。

【講義概要】

本講義ではプログラミング用のエディタの基本的な使い方についても習得する。理解度を図るためのテストも実施する。自主学習も必要不可欠である。教科書を使用するため、教科書は必携すること。(貸出不可)

回	授業計画及び学習の内容
1	JavaScriptとは。JavaScriptの記述場所。console.log。DOMについて。
2	HTML要素を指定して、HTMLの内容・属性やCSSの値を変更
3	イベントリスナーを使って、ユーザーの操作に応じた機能を実装
4	複数の要素を個別にJavaScriptで制御する。四則演算
5	条件に応じて処理を変更する
6	forEach文で複数の処理をまとめる
7	CSSアニメーションとclassの連携
8	小テスト：写真ギャラリーの完成
9	Mathオブジェクトについて。Math.random()。
10	for文について。配列について。
11	演習課題
12	小テスト：おみくじ作成
13	演習課題
14	課題レポート
15	課題レポート

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	60%		20%	20%		100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

15年以上、Webデザイナ・Webプログラマとして幅広いWebシステム開発、Webサイト制作に従事。また、複数の専門学校等でWebデザイン講師に従事。

【教科書・参考文献】

これからのJavaScriptの教科書、狩野 祐東（著）、 SBクリエイティブ

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　後期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
専門　必修	実習	データベース演習(SQL) I	坂東 佑一	有	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

SQLの演習を通して、DDLを用いたDB・TABLE作成、およびDMLによる基本的なデータ操作を身につけることを目標とする。

【講義概要】

実習を通し基本的なSQL操作を身につける。比較的少人数クラスの授業であることから、友人とコミュニケーションを取りつつ切磋琢磨することを期待する。

回	授業計画及び学習の内容	
1	データベースとは	
2	演習用データベース環境の構築	
3	４大命令の成り立ちと覚えるコツ	(SELECT文、INSERT文、UPDATE文、DELETE文)
4	操作対象の絞り込み	(WHERE句、条件式、比較演算子、主キー)
5	検索結果の加工	(DISTINCT句、ORDER BY句)
6	文字列にまつわる関数	(LENGTH関数、TRIM関数、REPLACE関数、SUBSTRING関数、CONCAT関数)
7	集計関数とグループ化	(GROUP BY句、MAX関数、MIN関数、SUM関数、AVG関数、COUNT関数)
8	副問い合わせ I	(単一行副問い合わせ)
9	副問い合わせ II	(複数行副問い合わせ)
10	副問い合わせ III	(表副問い合わせ)
11	複数テーブルの結合　内部結合	(JOIN句)
12	複数テーブルの結合　外部結合	(LEFT JOIN句、RIGHT JOIN句、FULL JOIN句)
13	テーブル作成　データ型と制約 I	(数値型、文字列型、日時型、NOT NULL制約、UNIQUE制約、CHECK制約)
14	テーブル作成　データ型と制約 II	(主キー制約、外部キー制約)
15	総まとめ、SQL強化演習	

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	100%					100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

慶應義塾大学理工学部情報工学科(学士)、東京大学大学院学際情報学府(修士)
NTT研究所(2013-2015)、慶應義塾ITC(2015-2020)での勤務を経て、2020年2月～現職

【教科書・参考文献】

スッキリわかるSQL入門(株式会社インプレス)

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　後期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
専門　必修	実習	CCNA Ⅰ	坂井 剛	有	2 単位　30 時間
	講義	ネットワークⅡ			2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

資格「Cisco Certified Network Associate」の取得を目指しネットワークの基礎となる知識を学習する。
Cisco Networking Academy「CCNAv7: Enterprise Networking, Security, and Automation」のコース、
および教科書をベースにして学習を進めていく。

【講義概要】

単位習得にはNetworking Academyのコースで定められた項目をすべて修了し、課題設計と期末試験を合格する必要がある。
本講義は「Cisco Certified Network Associate」の取得により免除される。

回	授業計画及び学習の内容
1	ネットワークの基本とTCP/IPの概要
2	物理層の基礎
3	データリンク層の基礎
4	フレーム、MACアドレス、CSMA/CD
5	ネットワーク層の基礎
6	パケット、IPアドレス、サブネットマスク、
7	アドレス設計、サブネット化
8	中間試験
9	トランスポート層の基礎
10	セグメント、ポート番号、フロー制御
11	アプリケーション層のプロトコル
12	ネットワーク機器（スイッチ、ルータ）の基礎
13	Cisco製機器の基本と設計
14	総合復習演習
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	70%			30%		100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

大学院卒業後、8年間SEとして開発に携わる。2010年より教員として勤務。
Cisco Certified Network Associate資格、およびCCNAインストラクターの資格所有。

【教科書・参考文献】

『シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト＆問題集［対応試験］200-301』（翔泳社：ISBN9784798165776）

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　前期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
基礎専門　必修	講義	アルゴリズムⅠ Ⅱ	坂東　佑一	有	4 単位　60 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

・アルゴリズムとは何かを理解し、フローチャートや疑似言語に慣れる
・提示されたアルゴリズムを、あるいは自ら考案したアルゴリズムを、プログラムとして実装できるようになる
・基本情報技術者試験のアルゴリズムの問題が解けるようになる

【講義概要】

最初に教科書を用いて簡単な講義を行った後、演習を行う。聞く時間は最小限にし、実際に手を動かす時間を多くする。Iパス、及び基本情報のアルゴリズムに関する過去問集を配布し、過去に出題された全アルゴリズムの問題を解いてもらう。

回	授業計画及び学習の内容
1	アルゴリズム/フローチャート/擬似言語とは
2	ITパスポートレベルの演習：基本制御構造、フローチャート、配列
3	ITパスポートレベルの演習：キュー、スタック、擬似言語
4	ITパスポートレベルの演習：擬似言語
5	基本情報科目Aレベルの演習：フローチャートを用いた各種問題
6	基本情報科目Aレベルの演習：フローチャートを用いた各種問題
7	中間試験☒
8	基本情報科目Aレベルの演習：二分探索、木構造
9	基本情報科目Aレベルの演習：ソート
10	基本情報科目Aレベルの演習：キュー、スタック、リスト
11	基本情報科目Aレベルの演習：ハッシュ関数、アルゴリズムの計算量、再帰
12	基本情報科目Bレベルの演習：公開サンプル問題を解く
13	基本情報科目Bレベルの演習：公開サンプル問題を解く
14	基本情報科目Bレベルの演習：公開サンプル問題を解く
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	100%					100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

慶應義塾大学理工学部情報工学科(学士)、東京大学大学院学際情報学府(修士)
NTT研究所(2013-2015)、慶應義塾ITC(2015-2020)での勤務を経て、2020年2月～現職

【教科書・参考文献】

・ITワールド、基本情報技術者科目A問題集（株式会社インフォテックサーブ）
・初心者が合格できる知識と実力がしっかり身につく　基本情報技術者［科目B］(SBクリエイティブ)
・令和07年 イメージ＆クレバー方式でよくわかる かやのき先生の基本情報技術者教室（技術評論社）

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　後期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
基礎専門　必修	講義	システム設計	清野ひろし	有	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

システム設計技術の基本となるウォーターフォールモデルの流れに沿って、設計に必要な技術を学習する。その上でデータ中心設計やアジャイル開発の目的や意味するところを学習する。

【講義概要】

ウォーターフォールモデルを基にして、設計の各段階でやるべきことを学ぶ。

回	授業計画及び学習の内容
1	シラバス説明、システム開発モデル
2	開発コストモデル、要求仕様
3	要求仕様、システム化準備
4	練習問題Ａの解説、システム分析手法
5	システム設計図法　ＤＦＤ、Ｅ－Ｒ図
6	構造化チャート
7	中間試験で理解度のチェック
8	中間試験開設、練習問題Ｂの解説、システム設計技法
9	外部設計
10	内部設計
11	練習問題Ｃ解説、プログラム設計
12	プログラム設計
13	ＤＢのテーブル設計
14	練習問題Ｄ解説、ＤＢ課題説明、期末範囲説明
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	70%	10%	15%	5%		100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

８年程度ＰＧ，ＳＥとして実務経験あり。主に言語関係（C，java，C++，C#，php，python）、linux、DBなどを担当する。

【教科書・参考文献】

特になし。資料による授業

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　前期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
基礎専門　必修	講義	セキュリティ I	村上 浩紀	有	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

情報セキュリティの基礎知識の習得とその活用

【講義概要】

IT初学者として情報セキュリティの知識を習得する必要性および重要性を理解する。セキュリティインシデント事例を基に予防と対応のための基礎知識を習得する。

回	授業計画及び学習の内容
1	情報セキュリティとは、サイバーセキュリティ、CSIRT、サイバー攻撃
2	マルウェア、情報セキュリティの守り方のポイント、ソーシャルエンジニアリング
3	攻撃、踏み台、犯罪、ボット、IoT
4	情報セキュリティの要素:パスワード
5	情報セキュリティの要素:無線LAN
6	情報セキュリティの要素:Web・メールを安全に利用する
7	中間試験
8	情報セキュリティの要素:暗号化
9	情報漏えい、インシデント
10	スマートフォン・パソコンのセキュリティ設定
11	攻撃を受けた時の対処、情報セキュリティ監査の資格
12	情報リテラシー:SNS
13	情報リテラシー:違法行為、不正行為、子供を守る
14	情報リテラシー:屋外・海外でのシステムの利用、大災害・テロに備える
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	60%			40%		100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。としない。

【教員紹介】

(1) ITベンダー勤務、クラウドアーキテクト
(2) 情報セキュリティ製品および認証系エンジニアとしての業務経験
(3) 情報セキュリティの取り組み支援および講演、演習などの実務経験

【教科書・参考文献】

NISC:「インターネットの安全・安心ハンドブック」 https://www.nisc.go.jp/security-site/handbook/index.html
参考文献：ネットワークセキュリティ （オーム社）https://shop.ohmsha.co.jp/shopdetail/000000004922/
参考文献：暗号技術入門 （SBクリエイティブ） https://www.sbcr.jp/product/4797382228/

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　後期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
基礎専門　必修	講義	セキュリティⅡ	久良知 眞紀子	有	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

情報セキュリティマネジメント試験の午前・午後問題分野について、要点確認と問題演習を行う。

【講義概要】

教科書の単元に沿って解説する。毎回、授業の最後に、その日の授業の範囲から出題した小テストを行う。

回	授業計画及び学習の内容
1	情報セキュリティ全般：単元01 情報セキュリティ
2	情報セキュリティ全般：単元02 マルウェア、単元03 パスワードの不正入手/不正利用、
3	情報セキュリティ全般：単元04 Webサイト利用者への攻撃、単元05 サービスの妨害/悪用、
4	情報セキュリティ全般：単元06 人的脅威、単元07 物理的脅威/その他の脅威、
5	情報セキュリティ全般：単元08 暗号化技術、単元09 認証技術
6	情報セキュリティ全般：単元10 ディジタル署名
7	中間試験
8	情報セキュリティ対策：単元11 マルウェア対策、単元12 不正アクセス対策
9	情報セキュリティ対策：単元13ネットワークセキュリティ、単元14情報漏えい対策
10	情報セキュリティ対策：単元15その他のセキュリティ対策
11	情報セキュリティ管理：単元16 情報セキュリティマネジメント、単元17 ISMS
12	情報セキュリティ管理：単元18 リスクマネジメント、単元19 情報セキュリティインシデント管理
13	情報セキュリティ関連法規：単元20 情報セキュリティ関連法規
14	総合問題
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	80%			20%		100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

①銀行でシステム開発に従事（2年）
②IT企業で開発に従事（2年）
③起業し、システム開発、教育、翻訳、テクニカルライティング（20年）
④専門学校でIT系科目を担当（10年）

【教科書・参考文献】

情報セキュマネ試験　要点＆問題集（インフォテックサーブ）

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　前期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
基礎専門　必修	講義	ソフトウェア	坂東　佑一	有	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

基本情報技術者試験の範囲を中心に、コンピュータ科学の基礎、ソフトウェアの基礎を理解する。

【講義概要】

可能な限り過去問演習時間を多く取り、基本情報技術者試験の問題に慣れてもらう。テーマの順番は前後する場合がある。

回	授業計画及び学習の内容
1	情報処理システムの処理形態
2	高信頼化システムの構成、情報処理システムの評価１
3	情報処理システムの評価２、ヒューマンインターフェース１
4	ヒューマンインタフェース２、マルチメディア
5	ソフトウェアの分類、オペレーティングシステム１
6	オペレーティングシステム２
7	中間試験
8	オペレーティングシステム３
9	プログラム言語と言語プロセッサ
10	ファイル１
11	ファイル２
12	データベースの概要１
13	データベースの概要２
14	データベースの概要３、いろいろなデータベース
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	100%					100%

（補足）
・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

慶應義塾大学理工学部情報工学科(学士)、東京大学大学院学際情報学府(修士)
NTT研究所(2013-2015)、慶應義塾ITC(2015-2020)での勤務を経て、2020年2月～現職

【教科書・参考文献】

・ITワールド、基本情報技術者科目A問題集（株式会社インフォテックサーブ）
・［令和7年度］基本情報技術者 超効率の教科書＋よく出る問題集 （インプレス）

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　前期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
基礎専門　必修	講義	ハードウェアⅠⅡ	砂賀　勝己	無	4 単位　60 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

基本情報技術者試験の対象となる範囲を中心に、ハードウェアの基礎について学習する。
時間があればパソコンの部品・内部構成・技術などについても触れる。

【講義概要】

基本情報技術者試験の午前分野の対策となる演習も行う。

回	授業計画及び学習の内容
1	学習目標、コンピュータの基本構成、データの表現、 基数(２進･１０進･１６進、コンピュータの分野における基数の必要性について)、 基数変換１(２進数→１０進数)
2	基数変換２(１６進数→１０進数、１０進数→２進数、１０進数→１６進数)
3	基数変換３(２進数←→１６進数)、２進数の加減算、データの表現形式(浮動小数点除く)
4	１～３回の演習、中央処理装置の構成
5	論理演算１、記憶素子
6	論理演算２、中間試験対策
7	中間試験☒
8	中間試験解説、高速化技術
9	磁気ディスク１
10	磁気ディスク２
11	光ディスク、その他の補助記憶媒体・装置
12	８～１０回の演習、コンピュータの性能評価
13	パソコン関連技術
14	前回の演習の解説、期末試験対策、浮動小数点
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	80%		20%			100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

教員歴30年強. プログラム言語やネットワーク、サーバ系の授業を主に担当.
学内情シスのような業務も行っている.

【教科書・参考文献】

・ITワールド、基本情報技術者科目A問題集（株式会社インフォテックサーブ）

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　前期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
基礎専門　必修	講義	ネットワークⅠ	石川　章	有	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

・通信回線の基礎技術からイーサネット技術までを習得する。
・基本情報技術者試験におけるネットワークの設問に対応出来る知識を習得する。

【講義概要】

・教科書をベースに各項目について説明する。
・演習問題による知識の確認を行う。

回	授業計画及び学習の内容
1	ネットワークの歴史と前提知識
2	ネットワークの種類１：ネットワークの分類、電話網
3	ネットワークの種類２：パケット交換網、携帯電話網
4	ブロードバンド：ＡＤＳＬ、ＦＴＴＨ、ＣＡＴＶ
5	データ伝送の実際：文字データ形式、伝送方式、誤り制御
6	前半の補足と復習
7	中間試験
8	通信回線の計算：伝送時間及び回線速度の算出
9	アナログ－デジタル変換：変換方法と特性、データ量の算出
10	マルチメディア：静止画、動画、音声の各ファイル形式、圧縮技術
11	イーサネット１：イーサネットによるデータ伝送方法
12	イーサネット２：イーサネット用通信機器
13	通信プロトコルとＯＳＩ参照モデル
14	後半の補足と復習
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	70%		30%			100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。としない。

【教員紹介】

・長年通信会社に勤務していたため電話～インターネットなど通信全般に関する広い知識を有しています。

【教科書・参考文献】

ＩＴワールド、演習問題集

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　後期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
専門　必修	講義	ネットワークⅡ	坂井 剛	有	2 単位　30 時間
	実習	CCNA I			2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

資格「Cisco Certified Network Associate」の取得を目指しネットワークの基礎となる知識を学習する。
Cisco Networking Academy「CCNAv7: Enterprise Networking, Security, and Automation」のコース、
および教科書をベースにして学習を進めていく。

【講義概要】

単位習得にはNetworking Academyのコースで定められた項目をすべて修了し、課題設計と期末試験を合格する必要がある。
本講義は「Cisco Certified Network Associate」の取得により免除される。

回	授業計画及び学習の内容
1	ネットワークの基本とTCP/IPの概要
2	物理層の基礎
3	データリンク層の基礎
4	フレーム、MACアドレス、CSMA/CD
5	ネットワーク層の基礎
6	パケット、IPアドレス、サブネットマスク、
7	アドレス設計、サブネット化
8	中間試験
9	トランスポート層の基礎
10	セグメント、ポート番号、フロー制御
11	アプリケーション層のプロトコル
12	ネットワーク機器（スイッチ、ルータ）の基礎
13	Cisco製機器の基本と設計
14	総合復習演習
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	70%			30%		100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

大学院卒業後、8年間SEとして開発に携わる。2010年より教員として勤務。
Cisco Certified Network Associate資格、およびCCNAインストラクターの資格所有。

【教科書・参考文献】

『シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト＆問題集［対応試験］200-301』（翔泳社：ISBN9784798165776）

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　前期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
基礎専門　必修	実習	ホームページ	高橋　義博	有	4 単位　60 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

ウェブサイトやウェブシステムの基本技術であるHTML・CSSの基礎を学び、複数ページあるウェブサイトを完成させることを目標とする。

【講義概要】

ウェブサイト制作のための環境構築から、HTML・CSSの基本から応用を学んでいく。各技術の学習だけでなく、ウェブページを作成することを意識しながら学習していく。夏季休暇中に課題レポートをおこなう。毎回、教科書をベースに説明するため教科書は必携すること。(貸出不可)

回	授業計画及び学習の内容
1	ウェブサイト制作のための環境構築、エディタの使い方、HTMLの基礎
2	自己紹介サイト制作、Google Map、Youtubeの埋め込み
3	HTMLの基礎、見出し、段落、リスト、グループ化
4	テーブルについて、リンクと画像の挿入
5	CSSの基礎、CSSファイルの読み込み
6	CSSの基礎、CSSファイルの読み込み、各スタイルの設定
7	ボックスモデル、背景画像の設定
8	小テスト１
9	フレックスについて
10	２ページ目とグリッドレイアウト１
11	２ページ目とグリッドレイアウト２
12	自己紹介サイト制作１/ 小テスト２
13	自己紹介サイト制作２、プレゼン
14	課題レポート
15	課題ウェブサイト制作

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	60%		20%	20%		100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

15年以上、Webデザイナ・Webプログラマとして幅広いWebシステム開発、Webサイト制作に従事。また、複数の専門学校等でWebデザイン講師に従事。

【教科書・参考文献】

スラスラわかるHTML&CSSのきほん 第3版、狩野 祐東（著)、 SBクリエイティブ

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　前期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
基礎専門　必修	実習	表計算基礎Ⅰ	藤田恵子	無	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

EXCEL基本機能、セル入力（数値、小数点、%、通貨、カンマ、記号や文字）、表作成、印刷方法、グラフ作成、集計計算機能、データベース機能、印刷機能、ページ設定、シート管理ファイル管理などビジネス日常業務で必要な技能を習得し身に着ける

【講義概要】

毎回配布プリントの見本や指示に従い、毎回課題を作成し、Ａ４紙に印刷して提出し評価を受ける。課題は、完成しＡ評価をもらうまで提出を続けること。テキストがない代わりに、PDF形式の見本や説明を毎回ファイルで配布し各自で確認できる。

回	授業計画及び学習の内容
1	セルへの基本文字入力、データ数値入力、通貨記号、%の表示のしかた、セルの書式、保存方法、ヘッダーフッター使い方
2	印刷範囲とページ設定、印刷方法、表作成の基本、データ入力、四則計算、ＳＵＭの計算、平均AVERAGE、MAX、MIN
3	表作成、セルの書式設定、表示形式、罫線の編集、セル結合、斜めの罫線、合計ＳＵＭの活用、利益率%
4	グラフ作成の基本（円グラフ、縦棒グラフ）横棒グラフ（軸の反転）タイトルや軸の変更
5	数式のコピー、相対参照と絶対参照Ｆ４（$）、SMALL、rarge、COUNT、COUNTA、COUNTIF
6	表作成とグラフ作成と、日付入力、時刻入力、日数や時間数の計算、表示形式の変更ユーザ定義使う
7	条件判定IFの基本、IFの練習、条件式の作り方、IFの応用
8	条件判定IFの応用、AND・OR・NORの使い方、ＩＦのネストの活用
9	順位RANK、並べ替え、フィルタ機能、RANK.avg、RANK.EQ　MATCHとINNDEXの活用
10	住所録作成、年齢計算、経過日数、稼働時間の計算方法　賃金計算
11	表検索VLOOKUP、HLOOKUPを使った課題　（検定試験２級レベル）　DSUMの活用、SUMIFの活用
12	複数シートの集計,シート名変更、シートの移動と挿入、ファイル同士のデータリンク集計
13	図形、画像、ハイパーリンク、セルの使用禁止、フィルタ抽出絞り込み、複雑な並べ替え、
14	まとめと復習１
15	まとめと復習２

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	70%			30%		100%

（補足）
・成績は１００点を最高とし、６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

_

【教科書・参考文献】

実教出版Excel３０時間、無限大EXCEL、MOS試験対策本、日商文書作成検定2級試験問題、

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　後期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
基礎専門　必修	実習	表計算基礎Ⅱ	藤田恵子	無	4 単位　60 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

EXCEL基本機能、セル入力（数値、小数点、%、通貨、カンマ、記号や文字）、表作成、印刷方法、グラフ作成、集計計算機能、データベース機能、印刷機能、ページ設定、シート管理ファイル管理などビジネス日常業務で必要な技能を習得し身に着ける

【講義概要】

毎回配布プリントの見本や指示に従い、毎回課題を作成し、Ａ４紙に印刷して提出し評価を受ける。課題は、完成しＡ評価をもらうまで提出を続けること。テキストがない代わりに、PDF形式の見本や説明を毎回ファイルで配布し各自で確認できる。

回	授業計画及び学習の内容
1	表作成、罫線変更、セル結合、複数シートの集計（基本関数の復習sumaverage/max/count/countif/if/rank/small/large）
2	グラフ作成（積み上げ横棒、レーダチャート、２つの円グラフ、ヒストグラム、折れ線）と、WORDへリンク貼り付け
3	日付関数による計算（DATE/month/day/year/today/now）時刻の計算稼働時間など（time/hour/minute/second）
4	セルの表示形式の変更とユーザ定義（時刻や日付や曜日の定義、整数や小数、単位をつけるなどの定義づけ）
5	表検索（VLOOKUP/HLOOKUP）の活用とIF関数の応用、MATCH関数の応用、文字列関数（light/left/MID）の活用
6	表のデータベース機能（複数条件の並べ替え/フィルタによる抽出/フィルタボタンの使い方/テーブルの条件付き書式）
7	複数ファイルからのデータインポート、シートの移動や削除やコピー/別ファイル同士の集計/リンクの設定と活用
8	複数シートの串刺し演算活用/複数シートのグループ化の活用/シートの保護の活用/PDF変換/WEBへの変換/WEBをインポート
9	データベースの集計（DSUM/daverage/DCOUNT/DMAX/DMIN）条件の作成方法/SUMIFによるデータの条件別集計
10	WORD差し込み印刷への住所録データベースの作成（各リストの定義をつくる）VLOOKUPの活用による個別検索（リスト使用（
11	勤務表稼働時間計算/時速や分速秒速/に進数計算など応用/ABS絶対値の活用/WHAT-IF予測自動計算機能
12	VBAプログラム（自動マクロの活用、フォームやツールの活用、基本if～then文）（for--繰り返し）
13	VBAプログラム作成（差し込み印刷の自動化、データベース表の自動化、表計算の自動化）
14	まとめと復習１
15	まとめと復習２

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	70%			30%		100%

（補足）
・成績は１００点を最高とし、６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

-

【教科書・参考文献】

実教出版Excel３０時間、無限大EXCEL、MOS試験対策本、日商文書作成検定2級試験問題、

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　前期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
基礎専門　必修	実習	文書編集基礎	佐藤　薫	有	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

Word2019を使用して文書編集の機能を理解し、定型のビジネス文書や表や図入りの案内書を効率よく作成できるようになり、長文の文書の編集方法を習得することが目標。入力速度の向上も目指そう(最低でも400字以上/10分)。

【講義概要】

機能の操作説明をよく聞き、操作方法を理解して実習課題を1,2問ほど作成する。不明点は積極的に聞いて文書作成の基礎を身に付けよう。授業中に提出できなかった必須課題は仕上げて、必ず提出すること。

回	授業計画及び学習の内容
1	Word画面の名称、新規文書の作成、入力の基礎、ファイル保存、課題の提出方法
2	文字の移動・コピー、文書の表示方法、ビジネス文書のルール
3	ページ設定、文字の書式、文字の配置
4	箇条書きと段落番号、行間の設定、文書の印刷
5	練習問題-1（ビジネス文書の作成）
6	表の作成と編集
7	表のスタイル変更、段落に引く罫線
8	図形の挿入と編集
9	グラフィックの挿入（図、SmartArt、ワードアート）
10	練習問題-2（表やオブジェクトのある文書の作成）
11	文書のレイアウト機能（タブ、段組み、ヘッダー・フッター）
12	文書のレイアウト機能（ページの背景、テーマ）／ 練習問題-3（レイアウトを工夫する文書の作成）
13	長文作成に役立つ機能（スタイル、目次、検索と置換）
14	まとめ
15	まとめ

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	80%			20%		100%

（補足）
・成績は１００点を最高とし、６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

専門学校でOffice系の科目、派遣会社で企業向けのOffice研修を担当。MOS試験やOffice関連の書籍の執筆も担当。

【教科書・参考文献】

世界一わかりやすいWordテキスト（技術評論社）

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　前期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
基礎専門　必修	講義	ITパスポート対策	太田和也	有	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

ITパスポート試験合格を目標とする

【講義概要】

ITパスポート試験の対策を行う。
各分野ごとに問題演習と解説を行い、内容の理解と試験問題を解けるようにする。
ITパスポート取得者は受講/定期試験免除となる。

回	授業計画及び学習の内容
1	ITパスポート試験の概要と対策授業について
2	問題演習と解説（マネジメント系　開発技術）
3	問題演習と解説（マネジメント系　プロジェクトマネジメント）
4	問題演習と解説（マネジメント系　サービスマネジメント）
5	小テスト（マネジメント系）
6	中間試験対策
7	中間試験
8	問題演習と解説（ストラテジ系　企業と法務）
9	問題演習と解説（ストラテジ系　経営戦略）
10	問題演習と解説（ストラテジ系　システム戦略）
11	小テスト（ストラテジ系）
12	問題演習と解説（テクノロジ系　コンピュータシステム）
13	問題演習と解説（テクノロジ系　技術要素）
14	期末試験対策
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	50%	30%		20%		100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

独立系IT企業にて、アンチウイルス製品のプリセールスおよび製品導入作業、サーバの設計、構築、保守に従事。

【教科書・参考文献】

ITパスポート　超効率の教科書 令和7年度 渡辺さき著／株式会社インプレス

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　後期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
基礎専門　必修	講義	基本情報対策Ⅰ	坂東　佑一	有	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

基本情報技術者試験(FE)全員合格を目標とする。その足掛かりとして、本授業では12月に学内で実施される免除試験合格を目指す。
(高度情報システム科の諸君へは、免除試験より前に各自で本試験を受験しFEを早期取得することを推奨する)

【講義概要】

免除試験は全問過去問からそのまま出題される。そのため、配布した過去問を各人3周し、徹底的に暗記すること。

回	授業計画及び学習の内容
1	免除試験の過去問演習
2	免除試験の過去問演習
3	免除試験の過去問演習
4	免除試験の過去問演習
5	免除試験の過去問演習
6	免除試験の過去問演習
7	中間試験
8	免除試験の過去問演習
9	免除試験の過去問演習
10	免除試験の過去問演習
11	免除試験の過去問演習
12	免除試験の過去問演習
13	免除試験の過去問演習
14	免除試験の過去問演習
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	100%					100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

慶應義塾大学理工学部情報工学科(学士)、東京大学大学院学際情報学府(修士)
NTT研究所(2013-2015)、慶應義塾ITC(2015-2020)での勤務を経て、2020年2月～現職

【教科書・参考文献】

免除試験の過去問を配布する

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　後期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
基礎専門　必修	講義	基本情報科目A対策	井元和彦	無	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

基本情報技術者試験科目Aにおいて、合格水準の力を身につけることを目標とする。

【講義概要】

基本情報技術者試験の科目A及び旧午前試験の過去問題、公開問題、サンプル問題を中心に演習・解説を行う。

回	授業計画及び学習の内容
1	過去問演習
2	過去問演習
3	過去問演習
4	過去問演習
5	過去問演習
6	過去問演習
7	中間試験
8	過去問演習
9	過去問演習
10	過去問演習
11	過去問演習
12	過去問演習
13	過去問演習
14	過去問演習
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	80%			20%		100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

本校専任講師として、資格対策、セキュリティ、ハードウェア、プログラミングなどの授業を担当

【教科書・参考文献】

IPAが公開している過去問題、サンプル問題

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　後期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
基礎専門　必修	講義	基本情報科目B対策	安藤　真理	無	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

基本情報技術者試験（ＦＥ）の取得を目指すため、科目Bの過去問などや主に出題されるアルゴリズムを学習する。

【講義概要】

基本情報技術者試験は過去問から出題されるので、過去問の学習および理解を深める。

回	授業計画及び学習の内容
1	基本情報技術者試験の科目Bについて　前期のアルゴリズムの復習
2	擬似言語　分岐と繰り返し
3	配列①、再帰
4	配列②
5	二次元配列
6	中間試験対策
7	中間試験解説
8	探索
9	リスト①
10	リスト②
11	木構造、ハッシュ表
12	整列①
13	整列②
14	期末試験対策
15	期末試験解説

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	80%			20%		100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

大学院在学時より小学校ICT支援員とPCクラブ講師に従事。中学数学科・技術科、高校情報科の教員、専門学校にて外国人留学生に教えるなど様々な教育現場に従事した経験を持つ。

【教科書・参考文献】

基本情報技術者[科目B]ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ問題集(第2版)（大原出版）

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　前期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
一般教育　必修	講義	基礎数学Ⅰ	氏原　真代	無	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

数学の基礎（数列、順列、組合せ、指数、対数、三角関数、微分、積分）を学び、活用できることを目指す。

【講義概要】

数列、順列、組合せ、指数、対数、三角関数、微分、積分などの基礎を学習する。それぞれの分野の演習問題を行い、基礎的な問題が解けるようにする。

回	授業計画及び学習の内容
1	指数・対数（１）　指数関数
2	指数・対数（２）　対数関数
3	数列（１）　等差数列とその和
4	数列（２）　等比数列とその和
5	場合の数（１）　順列
6	前半まとめ　演習問題
7	中間試験
8	場合の数（２）　組合せ
9	三角関数（１）　弧度法・三角比
10	三角関数（２）　加法定理・三角関数の合成
11	微分（１）　微分係数・導関数
12	微分（２）　導関数の応用・関数の最大と最小
13	積分　不定積分・定積分
14	後半まとめ　演習問題
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	80%	10%		10%		100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。としない。

【教員紹介】

本校診療放射線学科で専任講師として20年以上、数学・物理学・電気実験等を担当し、その後非常勤講師として、独立行政法人教育センターや各種専門学校等で、数学・物理学・電気実験等を担当

【教科書・参考文献】

授業時にプリント配布・講義の際に紹介

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　後期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
一般教育　必修	講義	基礎数学Ⅱ	氏原　真代	無	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

確率・統計学は数量的データを処理する際に必要であり、現実の問題を解析する際にも有用である。多くの例題や問題を解くことでこれらを学び、活用できることをめざす。

【講義概要】

確率の基礎知識を理解し、確率の計算方法を学ぶ。統計データや確率変数の平均値、分散、標準偏差の意味を理解し、その計算方法を学ぶ。

回	授業計画及び学習の内容
1	確率の考え方と集合
2	場合の数（順列や組合せ）と二項定理
3	集合と確率の関係性と確率の加法定理
4	乗法定理を用いた確率の計算方法(従属・独立)
5	ベイズの定理
6	前半まとめ　演習問題
7	中間試験
8	確率変数と確率分布の関係
9	代表値と分散、標準偏差の意味と計算方法
10	確率変数の平均値、分散、標準偏差の計算方法
11	確率変数の和と積、ベルヌーイ分布
12	二項分布とポアソン分布
13	二項分布のグラフの性質と正規分布
14	後半まとめ　演習演習
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	80%	10%		10%		100%

（補足）
・成績は１００点を最高とし、６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

本校診療放射線学科で専任講師として20年以上、数学・物理学・電気実験等を担当し、その後非常勤講師として、独立行政法人教育センターや各種専門学校等で、数学・物理学・電気実験等を担当

【教科書・参考文献】

授業時にプリント配布・講義の際に紹介

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　後期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
一般教育　必修	講義	基礎英語Ⅰ	酒井智子	有	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

既習の文法事項の定着をはかりつつ、更に実用的な英語の四技能（読・書・聞・話）の基礎力・応用力を養う。
将来の職場において、身近にある既存のツールを用いての必要最低限以上の対応力を養うことを目標とする。

【講義概要】

世界的に有名な企業について取り上げた教材を用い、その社会的な取り組みに関する知識を得ながら語彙を増やし英語力の基礎を築く。またITの専門領域に特化した単語集より各回15語程度の英単語を例文を通して覚える。小テストや課題を原則毎回こなし、地道な取り組みによる成果を得ることで、日常の努力が報われる成功体験を得てもらう。

回	授業計画及び学習の内容
1	オリエンテーション、５文型８品詞
2	Unit 1 ”７－ELEVEN”（1)、IT単語・例文プリント①-1
3	Unit 1 ”７－ELEVEN”（2)、IT単語・例文プリント①-2
4	Unit 2 ”LINE”（1)、IT単語・例文プリント②-1
5	Unit 2 ”LINE”（2)、IT単語・例文プリント②-2
6	Unit 3 ”NISSIN FOODS”(1)、IT単語・例文プリント
7	中間試験
8	Unit 3 ”NISSIN FOODS”(2)、IT単語・例文プリント③-1
9	Unit 4 ”McDonald’s”（1)、IT単語・例文プリント③-2
10	Unit 4 ”McDonald’s”（2)、IT単語・例文プリント④-1
11	Unit 5 ”TOYOTA”（1)、IT単語・例文プリント④-2
12	Unit 5 ”TOYOTA”（2)、IT単語・例文プリント⑤-1
13	Unit 6 ”STARBUCKS”（1)、IT単語・例文プリント⑤-2
14	Unit 6 ”STARBUCKS”（2）
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	90%	5%	3%	2%		100%

（補足）　・成績は１００点を最高とし、　６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

高校教師（４年）、外資系企業の秘書（５年）、医療系大学で薬学部非常勤講師の経験（２年半）あり。
取得資格：英検1級、全国通訳案内士、医療通訳士技能検定2級(日本医療通訳協会)

【教科書・参考文献】

【教科書】 Purpose – Companies for Social Good 「英語で学ぶ社会における企業の存在意義」（金星堂）
【参考文献】IPA セキュリティ英単語集（情報処理推進機構 website より）

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　前期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
一般教育　必修	講義	ビジネスマナーⅠ	山際　能理子	有	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

接遇を学び、正しいビジネスマナーを習得し、良好な人間関係の構築を図る

【講義概要】

クラス全員の参加型形式で、「知る・わかる・できる」のステップで、身につけていきます。

回	授業計画及び学習の内容
1	【オリエンテーション】　クラスのルール　　クラスメンバーと知りあう
2	【サービススタッフの資質①】仕事は全てサービス業　心構えと基本行動
3	【サービススタッフの資質②】好印象・好感度の形成
4	【サービスの専門知識】サービスの機能や種類
5	【従業知識】商業用語・経済用語　会社の構成
6	【一般知識①】ことわざ・慣用表現　慶事の知識
7	【一般知識②】物の名称・数え方　カタカナ用語　弔事の知識
8	【対人技能①】コミュニケーション
9	【対人技能②】接遇の基本　接遇用語　敬語
10	【対人技能③】基本のマナー　お辞儀・立ち居振る舞い・案内・席次・和室・食事
11	【実務技能①】問題の捉え方　問題への対応
12	【実務技能②】環境の整備　金品管理
13	【実務技能③】社交業務
14	サービス接遇検定　模擬テストに挑戦
15	全体のまとめ

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	50%			50%	参考：授業姿勢を重要視	100%

（補足）
・成績は１００点を最高とし、６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

情報処理科、電子技術科、臨床工学科において、ビジネスマナーを担当。学校での講義だけでなく、企業での研修や講演も行っている。サービス接遇検定本の著者。

【教科書・参考文献】

ユーキャンのサービス接遇検定合格テキスト＆問題集

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　後期
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
一般教育　必修	講義	経営	古郡聡	有	2 単位　30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

IT社会を支えている情報システムを中心とした戦略について、経営戦略と企業について学ぶ。また、基本情報技術者試験のマネジメント分野、ストラテジ分野の対策も兼ね、基本情報技術者試験の合格を目指す。

【講義概要】

授業テーマごとにテキスト『IT戦略とマネジメント』に基づいて解説した後，毎回要点のまとめを実施し、確実な知識の習得を促す

回	授業計画及び学習の内容
1	企業活動の目的
2	企業会計
3	オペレーションズリサーチ(1)
4	オペレーションズリサーチ(2)
5	経営工学・品質管理
6	法務と標準化
7	中間試験
8	経営戦略マネジメント(1)☒
9	経営戦略マネジメント(2)☒
10	技術戦略マネジメント・ビジネスインダストリ
11	e-ビジネス
12	情報システム戦略
13	情報システム企画
14	開発技術
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（　　）	合計
割合	75%				25%	100%

（補足）
・成績は１００点を最高とし、６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。としない。

【教員紹介】

教育機関にて学内のシステム開発業務に従事。企業のIT系研修及び情報系専門学校にて講師を担当。

【教科書・参考文献】

『IT戦略とマネジメント』㈱インフォテック・サーブ

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　通年
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
一般教育　必修	実習	体育実習Ⅰ	高度情報システム科 担当教員	無	4 単位　60 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

運動や、課外活動、学園祭を通して、健全な身体と精神を育む。
　ハイキングは、自然の多い公園などをおおむね ４時間程度歩き、心身のバランスを図ります。
　学園祭は、各種催し物の企画、準備、実施、参加により、協調性を養います。
　心身の健全な育成を目指しています。

【講義概要】

この授業は、春と秋のハイキング、学園祭（準備２日間、学園祭２日間）の参加を以て、評価します。

回	授業計画及び学習の内容
1	
2	春のハイキング
3	
4	
5	学園祭準備（１日目、２日目）
6	
7	
8	学園祭（１日目）
9	
10	
11	学園祭（２日目）、後片付け
12	
13	
14	秋のハイキング
15	

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（出席と取り組む姿勢）	合計
割合					100%	100%

（補足）
・成績は１００点を最高とし、６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

–

【教科書・参考文献】

–

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		1 年　通年
講義区分	**授業形態**	**授業科目名**	**担当教員**	**実務経験**	**単位・時間数**
一般教育　選択	実習	課外活動Ⅰ	高度情報システム科 担当教員	無	1 単位　15 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

インターンシップで就業体験をしたり、企業との産学連携事業を通して特別授業やセミナーを受講、外部の勉強会やコンテスト参加など、就職に役立つ知識の習得や最新の技術動向に触れるなど、学内の授業だけでは体験できないことを経験する。

【講義概要】

参加した時間数に応じて1次元単位時間を超えた場合に１単位を認定する

回	授業計画及び学習の内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	インターンシップ、企業が実施する特別授業、セミナー受講、外部の勉強会参加、 コンテスト参加など
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(出席と取り組む姿勢)	合計
割合				50%	50%	100%

（補足）
・成績は１００点を最高とし、６０点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

–

【教科書・参考文献】

–